

2025年3月23日（日）第二礼拝「主の心にかなう人」使徒の働き 13章 21～23節

神様との関係が「救い」です。神様との関係を結んだ後、ますます神様と深く良い関係になる人もいますが、逆に、ますます関係が悪くなる人もいます。神様に油注がれ、王となったサウルは、イスラエルを治めましたが、神様との関係が悪くなり退けられました。神様はダビデを見いだし、王とされました。ダビデは神様の心に従い、神様の心にかなう者と言われました。このダビデの子孫から救い主イエス様が送られました。

第一番目、悔い改めです。私たちが主の御心を行うためには、悔い改めが必要です。ダビデは部下ウリヤの妻と関係を持ち、妊娠させ、ウリヤが戦場で死ぬように手紙で指示をしました。預言者ナタンにその罪を指摘された時、ダビデは自分が死に価する罪を犯したことを認識し、深く悔い改めます(詩篇 51 篇)。悔い改めとは、自分の背きの罪を知り、その罪に対して主が宣告される審判は正しいと認めることです。私たちは生まれながらに罪の本性を持つ者、罪に傾く者ですので、日々悔い改めが必要です。自分の罪を神様の前で悔い改めるなら、罪の赦しを受け、血潮で洗われ、雪のように白くされます。罪の赦しを受ける時、砕かれたからだ(病んだ心身)は癒され、聖霊をもう一度取り戻し、救いの喜び(初めの愛)に立ち返り、喜んで仕える霊を持って主の道を教える者と変えられるのです。

第二番目、自分の心を行うサウルです。サウルは、自らペリシテ人と戦争を起こし、その戦いの前に生贄を捧げようとサムエルを待ちました。サムエルは七日後来るはずでしたが、七日経っても来なかったため、サウル自ら、生贄を捧げました。その後サムエルは到着し、サウルを問いただします。サウルは、サムエルが七日経っても来なかったことや民が離れ去って行こうとしていることを理由にして、自分の行いを弁明しました。また、アマレクと戦った時、サウルは主の声に聞き従わず、肥えた羊や牛や小羊の最も良いものを惜しみ、聖絶しませんでした。そのため、サウルはサムエルによって「…あなたが主のことばを退けたので、主もあなたを王位から退けた。(Iサムエル 15:22～23)」と言われてしまいました。

第三番目、主の心に従うダビデです。ダビデは常に主に聞いていたので、何度も追って来るサウロからいのちを守られました。そのサウルをダビデは「油注がれた王」と言い、自ら手を下しませんでした。しかし、主に聞かずにペリシテに亡命した時には、ダビデは嘘をつきながら生活をしていました。ダビデの本拠地がアマレクによって攻撃され、妻や子どもたちが捕虜とされた時、ダビデの部下たちは腹を立て、ダビデを殺そうと企みました。その時、ダビデは悔い改め、神様との関係を修復しました。そして、神様にアマレクを追うべきかを聞き、神様の指示に従ってアマレクを追い、奪われたものを取り返し勝利しました。ダビデが王になった後、二度のペリシテ人の攻撃にも、ダビデは主に戦略を聞いて勝利しました。このダビデの子孫から救い主イエス様が送られました。このように主に聞く者を通して、神様は主の心を余すところなく行われるのです。自分の思いを捨て、罪を悔い改め、主の御心に従っていく者にイエス様を送ってくださり、御国を与えてくださるのです。アーメン！